

【別紙様式Ⅰ】 令和6年度 学校評価報告書

学校名 厚木市立南毛利小 学校

厚木市教育委員会の基本目標	1 自ら学び、鍛え、未来を拓き、夢や可能性に挑み続ける力の育成【挑戦】 2 自他の命や豊かな感性を大切に、多様性を認めながら共に生きていく力の育成【共生】 3 変化する社会に自ら進んで関わり、人々と協働してより良い社会を創る力の育成【創造】
---------------	--

校長名 高峰 裕子

学校教育目標	学校経営の方針
大楠の木のもとで より良く深く考えて やさしく あかるく たくましく生きる子をはぐむ【自律と共生】	[目指す学校の姿] ○安心・安全で笑顔の絶えない学校 ○個性を尊重し、個々の能力を最大限に伸ばせる学校 ○共に学び、励み合って共に育つ学校 ○小中9年間をつなげて学べる学校 [大切な考え方] ○主役は子ども、主柱は教職員 [行動指針] ○経営推進－想像力と創造性の発揮(全員が当事者！) ○教育活動－つなげて伸ばし、学びを開く

今年度の重点目標

○安心・安全で共に学ぶ楽しい生活の進展(生活指導の充実) ○学習指導要領の趣旨や内容の確実な実行	○確かな学力のより一層の向上(学習指導の充実) ○「3共」の歩みで学校を創る	○保護者や地域の方々と共に学ぶ場の進化
---	---	---------------------

評価項目・指標等	基本目標との関連	具体的な取組	成果と課題	次年度への具体的な改善策
地域に学び、地域を大切に育子に育てる。(地域愛)	1・3	鼓笛隊をはじめ、南毛利小学校の伝統に誇りをもたせる活動を実践した。 地域教材の発掘を進め、地域の教育力を学習に生かした。	本校伝統の鼓笛隊の活動は、保護者や地域の方々からの評価も高く、児童にとっては入学時からの憧れである。今年度は教科時数や、児童や教員に負担の無いよう計画を見直した。5年生の鼓笛隊活動の開始時期の変更や、練習時間の工夫、取り組む曲数など新しい鼓笛隊活動を行った。質は落とさずに、伝統の継承を意識して取り組むことができた。地域の教育力については、どの学年も適宜学習活動に活用した一方で、地域行事への児童の参加が、依然として低調であり、今後も学校運営協議会や地域学校協働活動推進員の方との連携を生かし、参加を促すことが必要である。	鼓笛隊については、児童の負担なく、今後も活動が継続でき、児童が憧れ続けることができるよう、人的・物的なバックアップ体制を構築する。地域の教育力については地域学校協働活動推進員の方に協力を得て、引き続き地域教材を発掘し、学習活動に生かす。また、地域行事への参加も、学校運営協議会を活用し、児童に声掛けするなど、参加率向上をめざす。
目標に向かい、より良く深く考えて、学習や仕事に励む子に育てる。(知性・勤勉)	1	個に応じた指導や、児童が自ら考え、そして、相互に「学び合う」授業を展開し、すべての児童が参加、活躍できる授業を実践した。また、単元計画を見直した授業づくりの研究を進めてきた。	日々の学習活動においては、「学び合い」を中心に据えつつ、個に応じた指導を意識した。また、GIGAスクール端末を有効的に活用し、デジタルとアナログのベストミックスした授業展開を行った。また、単元計画を見通した授業の展開により、児童の思考、表現、判断の力の育成につなげてきた。今後も児童が主体的に学ぶことができるよう、教材研究をさらに深めていくことが大切である。	今年度は「深く考え、思いを表現する子を育てる」授業の研究を進めてきた。昨年度の研究成果であるデジタルとアナログのベストミックスを有効的に活用し、また、各教科の単元計画が見通せるよう模索し、学習効果を高めていきたいと思う。
お互いを認め合う思いやりのある子に育てる。(相互尊重・共生)	2・3	道徳教育や特別活動の充実を通じて自律や共生の態度を育成した。特に人権教育については年間を通して行ってきたことで高い成果を得られている。また、一人一人の教育的ニーズに寄り添い、共に学んで成長する支援教育の充実を図った。	道徳科の授業や道徳的体験活動を通じて、児童がお互いを認め合ったり、友達の良さや個性を大切にしたりする場面が多く見られた。また、今年度も人権月間を設定するのではなく、年間を通して、「人権」を意識した取組を行ってきた。委員会が主体となって、「ふわふわことば」や「人権の木」を各クラスで作った。また今年度は、それを異学年だけでなく学校全体で交流した。その一方で、「ピンクシャツデー」では、活動に参加しない児童への配慮が足りないこともあった。形にとらわれずに大切なことは何かをしっかりと指導するのを感じ、お互いを思いやる活動にしていきたい。今後も人権教育を充実させたい。	児童が安心・安全に学校生活を送ることができるよう、落ち着いた学級づくり、学校づくりに取り組み、人権を大切にするための児童の主体的な取組を創出していく。また、一人一人の教育的ニーズに寄り添いながら、子どもの良さを生かす活動に積極的に取り組んでいく。また、変化する社会に対応できる力を育てていく。

進んであいさつのできる子に育てる。(礼儀)	2・3	あいさつの習慣化や校内規則の遵守について、教員間での認識を共有し、児童に取り組ませる活動を推進した。あいさつの大切さについては、児童に指導するとともに、家庭にも啓発を行った。	「あいさつ週間」等、児童会が中心となってイベント的な取組を行った。また、災害等がいつ起こるかわからないという危機感を持たせ、そこでの人と人とのつながりが重要になってくることを意識させ、コミュニケーションを取るきっかけになるであろうあいさつの大切さを指導し、「挨拶が人と人を繋ぐ」をスローガンに、児童にあいさつを意識させることを促してきたこともあり、あいさつが増えた。しかし、登下校や地域でのあいさつには、まだ課題が残った。あいさつの習慣化にむけた日常的な指導が大切であると考えている。	今年度の実績をふまえた上で、新たな取組等を検討しながら更にあいさつを増やしていきたい。また、あいさつの励行とともに、学校規則を徹底させるため、掲示物や児童会活動での啓発をより活発なものとしていく。今後も、「挨拶が人と人を繋ぐ」をスローガンに、児童にあいさつを意識させることを促していきたい。
いのちを大切にし、体を鍛え、目標に向けて粘り強くチャレンジする子に育てる。(健康・体力・挑戦)	1・2	集会や儀式の際には「命は一つ」という話をし、児童に生命尊重の大切さをその都度、再認識させた。自己の体力に関心をもたせ、充実した体育指導を展開し、健康の増進につながる保健・給食指導を行った。	全校集会での講話等で身体の安全や生命の尊さについて話し、自分の身をいかにして守っていくかという児童の意識も高まった。また、「ドッジボール大会」や「なわとび週間」の実施は、自己の体力に関心をもたせるきっかけにもつながった。給食指導に関しては、給食時に栄養教諭が放送を入れ、食育の指導を充実させた。今後も手洗い、うがいを徹底させるとともに、日々の保健・給食指導を通じ、より健康的な生活が継続できるようにさせていく。	積極的・予防的な児童指導を一層充実させ、必要な情報を共有し、いじめと暴力行為の根絶に向けて職員一丸となって取り組む。また、体力の向上については、引き続き「なわとび週間」「ドッジボール大会」を行うとともに、より効果的な体力向上につながる活動を計画していく。
今年度の学校関係者評価委員会からの意見				
今年度は地域学校協働活動推進員が配置され、地域と保護者のネットワークである「みなサポ」による「みなサポまつり」を開催したことは、大きな成果であった。学校運営協議会委員さんにも、入学式や運動会、「みなサポまつり」や卒業式など学校関係者として一緒に創り上げていただいた。その中で、児童が生き生きと活動している様子や、変化に対応しつつ、様々な教育活動に力を入れて取り組んでいることについて、高く評価していただいた。「あいさつ」については今年度も課題として残り、今後の活動に期待したいとの声があった。また、地域の教育力を積極的に取り入れていく活動を開始したことも評価していただいたが、子ども達が地域で活躍できる場の創出について望まれていた。				
今年度の学校経営のまとめ ・ 次年度への改善の方針				
令和6年度は本校にとって学校のあり方、教育内容、教育環境が大きく変化する年という意識のもと、「チーム南小」としての組織としての取組を進めてきた。鼓笛隊活動の工夫、インクルーシブ教育や防災教育に力を入れ教職員の意識を高められるよう、研修等を行った。次年度は、計画的に内容の充実を図り、更に変革をしていきたい。				